学生自主活動ルームにおける学生の活動と学生支援の実態

―平成 23 年度における取り組み―

阿　濱　志　保　里
吉　村　誠

要旨

本報告では平成 23 年度学生自主活動ルームにおける学生のキャリア形成につながる活動支援の報告を行う。特に，平成 23 年度には様々な学生の活動支援を行うために，導入した新たな試みについて実践を試みた。さらに，各活動を通して明らかになった学生の活動の現状，成果及び今後の課題について報告を行う。

キーワード

学生支援，自主活動，自主的社会貢献活動（ボランティア活動），キャリア形成

１はじめに

グローバル化する知識基盤社会において，学士レベルの資質能力を備える人材養成は重要な課題である。文部科学省が掲げる「学士力に関する主な内容」については，専門的な学問における内容への知識の習得と理解を必要すること，生活全般でのコミュニケーション能力などのコンピテンシー能力の必要性，汎用的技能，自己管理や，リーダーシップ能力などの態度・志向性の習得，および自ら学びの姿勢を持つ統合的な学習経験と創造的思考力が必要としている。文部科学省の掲げる学士力に関する主な内容を表１に示す。

求められる学士力のうち，「汎用的技能」，「態度・志向性」および「統合的な学習経験と創造的思考力」は学部の枠を超えたつながりの中で学ぶことができると考えられる。7 学部から構成される総合大学の本学においてこうした場面を学生自主活動ルームで支援したいと考える。

表１　求められる学士力

1	知識・理解	専攻する特定の学問分野において基本的な知識を体系的に理解（多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解）
2	汎用的技能	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能（コミュニケーション）
3	態度・志向性	自己管理、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任・生涯学習力
4	統合的な学習経験と創造的思考力	自ら立てた新たな課題を解決する能力

2 学生自主活動ルームの概要と支援体制

2.1 学生自主活動ルームの概要

山口大学のアカデミックポリシーにもとづき，学生の自主性や創造性をより引き出すための全学的な支援として，平成 18 年（2006 年）4 月に開設された。山口大学における学生自主活動ルームは,『自主活動とは，その活動を通して学生の自主性や創造性を培われるような，無報酬の課外活動全般を意味する。自主活動とは，自身の新たな側面を発見し，より見つめ，自身の個性として定着されていくことが可能な活動であると同時に，その活動の改善案などの新たな方策を自らも模索し，実行できる場でなければならない。』と定義され，学内および学外の学生の自主活動へ対して，相談，コーディネートおよび情報提供を行っている。

平成 23 年度は，平成 22 年度に引き続き，教育実践学アプローチに基づき，より学生の発想力や想像力，知的好奇心を持たせるような環境整備を行うとともに，学生の興味関心をより効果的に発揮できる環境の構築にあたった。

2.2 学生自主活動ルームの支援体制

学生自主活動ルームでは学生の自主的な活動の支援として，相談，コーディネート，情報提供，物品貸出を全学の学生に対して行っている。支援内容一覧を表 2 に示す。

2.3 利用者数

2011 年度 12 月末日時点の利用者数は 4104 人と昨年(2010 年 4 月～2011 年 3 月) 2344 人であったのに比べ, 大きく増加している。2011 年度における利用者数の内訳をみると，10 月以降の学生の利用が非常に増え，多くを占めている。2011 年度における利用者内訳を表 3 に示す。

表 2　支援内容

相談	「何かやってみたい」、「自分には何ができるか」など、気軽に話しながら、それが何なのかを自分の中で具体化させていくための相談業務
コーディネート	学生の様々な自主活動情報と学生のニーズに照らし合わせながら、専門家、学生、地域の活動と学生とを繋ぐ支援業務
情報提供	県内外の様々なイベントや、学内サークル、市民活動団体、活動支援機関などの情報の提供
物品貸出	学生の自主的なサポート支援のために、ビデオカメラ、デジタルカメラ、書籍、ビデオ編集システムなどの貸出業務

表 3　利用者数

	学生	教職員	学外	合計
4 月	423	11	5	439
5 月	374	5	9	388
6 月	420	6	19	445
7 月	415	30	13	458
8 月	223	53	10	286
9 月	237	32	9	278
10 月	576	32	7	615
11 月	629	17	13	659
12 月	507	18	11	536
合計	3804	204	96	4104

3 活動報告

3.1 学生の主体的な活動

国際理解分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，学生目線での国際理解を促す活動を行っている。活動の様子を図 1 に示す。

図 1　活動の様子

本グループはメンバーそれぞれが 2011 年夏季休暇の際に短期留学を行った。その時の経験や感じたことを報告した作成物の掲示を行った。掲示物を図 2 に示す。

この掲示物に関して，興味関心のある学生が足を止めて見ている姿が頻繁にみられる。多くの学生が興味関心を持ったことを受け，自分たちの渡航経験の報告だけでなく，海外経験を学部ごとにわかるような世界地図の製作を行い，掲示物を行った。学生の一方的な情報提供だけでなく，双方向に情報提供のできる環境の工夫を行っている。

図 2　掲示物

国際交流分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，日本文化の理解を通じて，国際交流を目的とした活動を行った。日本人学生と留学生との交流を促すために，門松づくりの活動の企画運営を行った。技術指導は施設管理部の方に協力が得られた。活動の様子を図 3 に示す。

図 3　門松づくりの様子

当日は 15 名程度の留学生や日本人学生が集まり，図書館前で日本文化を体験しながら，交流を行った。日本人と留学生が行うことで，国際的コミュニケーションの実践を行うことができた。

国際支援活動分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，給食支援活動を目指して，学内で活動を行っている。活動の様子を図 4 に示す。

図 4　活動の様子

次年度に学内食堂での導入を目指し，掲示板を活用し，学生たちの意見を聞くなど山口大学生の国際支援に関しての意見の集約を行った。掲示の様子を図 5 に示す。

図 5　掲示の様子

国際支援活動分野に興味のある学生が主体的に関わった活動として，ペットボトルキャップの収集を目指して活動を行っている。2010 年 12 月より活動をスタートさせ, 現在, 9, 753 個のペットボトルキャップを収集した。活動の様子を図 6，7 に示す。

図 6　活動の様子

図 7　活動の様子

今後は，ペットボトルキャンプの収集の継続と，収集したキャップを公的機関を通じて国際支援を行う予定である。

語学分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，週に一度，決められた時間を英語でしゃべる時間を設け，留学生や日本人学生と交流を図っている。活動の様子を図 8 に示す。

図 8　活動の様子

平和分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，平和に関して興味関心のある学生が平和に関しての資料展示を行った。活動の様子を図 9 に示す。

図 9　展示の様子

学生支援分野について興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，学生を対象にお昼ご飯を食べながら交流をする活動を行った。活動の様子を図 10 に示す。

図 10　活動の様子

キャリア形成の分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，書籍の総評を行い，山口大学生に読書推進を図る活動を行った。大学生目線を重視し，書籍のレビューを作製し，掲示を行っている。現在，自主活動ルーム前のスペースに掲示を行っている。興味のある学生が多く，手に取り，読んでいる様子が見られる。活動の様子を図 11 に示す。

図 11　活動の様子

対人コミュニケーション分野に関して興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，リーダーシップについて学ぶ機会を持ってもらうために，長期休暇を利用して，リーダーズ・スクールの開催を行っている。活動の様子を図 12 に示す。

図 12　活動の様子

9 月 25 日に大学構内にて実施し，学生同士が学びあいを重視した活動を行った。さらに 2 月に国立法人徳地青少年自然の家にての開催を予定している。

東日本大震災の支援活動に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，支援活動の記録写真などの掲示を行った。掲示の様子を図 13 に示す。

図 13　展示の様子

キャリア支援に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして，「フォーマルとは何か」を考えるために，情報コンテンツを活用して，広く学生から意見やコメントを集め，リーフレットの製作を行った。掲示・配布したリーフレットは就職活動を行っている学生だけでなく，1 年生や 2 年生も興味を持ち，持ち帰っている姿が見られた。掲示の様子を図 14 に示す。

図 14　掲示の様子

昨年度に比べ，本年度は学生の自主的な活動が活発化し，多くのプロジェクトがスタートした。国際に関するものやキャリア形成に関してのプロジェクトが多くみられた。さらに, 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を受け，震災支援活動も見られた。

3.2 自主的社会貢献活動（ボランティア活動）の実際

学生自主活動ルームは学生の自主的社会活動（ボランティア活動）への情報提供や支援活動を行っている。平成 23 年度における学生が参加した活動の一例を表 4 に示す。

表 4　学生が参加した活動

山口県議会議員一般選挙に伴う啓発ボランティア参加
ボーイスカウト「きらら浜ミニジャンボリー」ブース出展
「子育て支援メッセｉｎやまぐち」にボランティア参加
東日本大震災被災地へのボランティア参加
山口県サマーキャンプスクールへの参加
山口国体・山口大会県下一斉クリーンアップ大作戦
徳地アドベンチャー教育プログラム参加
山口市中心商店街「山口スペインフェスタ」のボランティア参加
山口市「放課後児童クラブ（学童保育）」へのボランティア参加
県内のＮＰＯ法人の活動へのボランティア参加
市内の各ＮＰＯ法人の活動へのボランティア参加
山口国体・山口大会　学生広報ボランティア「ぶちやっちょる隊!!」活動

図 15　活動の様子

若年層の選挙率改善を目的とした山口県主催の啓発活動に多くの学生が参加した。街頭での啓発キャンペーンなどに参加することで，選挙について考える機会になった。

図 16　活動の様子

図 17　活動の様子

ボーイスカウト主催の「ミニジャンボリー」に本学より 3 つのグループが参加した。与えられたキーワードをもとに，子どもたちとのワークショップの企画運営を行った。多くの子どもたちが興味関心を持ち，参加したことで，個人的・社会的役割や責任を理解し，市民性や社会性をはぐくむことができたとともに，自己効力感を得ることができたと考えあれる。

近年，学生を取り巻く社会状況などの変化に伴い，自主的社会貢献活動（ボランティア活動）への興味関心は強い。しかし，自主的な社会貢献活動に初めて参加する学生も多いことから，事前の勉強会や準備会を行った。児童館での自主的社会貢献活動へ参加するための準備会の様子を図 18 に示す。

図 18　準備会の様子

準備会・勉強会を行うことで，学生たちの不安や疑問について共有することができ，より効果的な自主的社会貢献活動への参画になったと考えられる。

また，今年度，新たな試みとして，学童保育からの依頼を受け，夏季休暇中に工作教室を行った。学生が主体となり，企画運営を行った。さらに，自ら協力者の募集も行った。活動の様子を図 19，20 に示す。

図 19　活動の様子

図 20　活動の様子

今までは学内外からの自主的社会貢献活動の募集を受けて，学生が支援的な立場で参加してきたが，学生が自ら企画し運営することで，などの能力を見つけることができ，社会性の獲得に寄与することができたと考えられる。

3.3WEBコンテの開発

学外からの自主的社会貢献活動の募集に関しての環境整備を目的にシステムの構築を行った。情報依頼者が自ら WEB 上から登録を行い，その後，コーディネーターが得た情報を教職員で構成される自主活動情報選考委員の確認完了後，学生への情報提供を行う。今までは学生自主活動ルームのある吉田キャンパスのみの閲覧しかできなかった情報をどのキャンパスの学生でも閲覧することができるようになった。現在，学外の利用者への周知・告知を行っている。学外からの申し込み画面を図 21 に示す。

図 21　学外から申し込み画面

3.4 講義との連携

今年度は教職向け科目である「教職協働実践Ⅰ」において，自主的社会貢献活動のコーディネートを行った。約 25 名の学生がそれぞれの希望をもとに，自主的社会貢献活動（ボランティア）先を決め，活動を行った。学生の参加した活動先は以前から，山口大学生に対して受け入れを行った経験があり，さらには 1 年以上の交流があるところであった。特に山口大学生については好意的な受け入れを行っていただいており，1 年生の学生にとっては体験活動がしやすい環境であった。活動の様子を図 22，23 示す。

図 22　活動の様子

図 23　活動の様子

次年度以降も継続予定であるため，学生への情報伝達の方法に工夫が必要であると考え

られる。また，1年生向けの授業であるため，教職科目に適切な活動先の検討を十分に行うことも必要であると考えられる。

3.5 学内における自主的社会貢献活動の試み

学外への自主的社会貢献活動への参加実施のみならず，学内で学生が活躍する場を提供することが，学生が大学の実施する活動に参加者としてだけではなく，運営側の補助として参加することで学内において役割を見出し，学生の社会性を身につける1つの方法であると考え，学内での自主的社会貢献活動の実施を試みた。11月に留学生支援センター主催で行われた「留学生ふるさと自慢」において，司会進行，会場の補助的なスタッフとして参加した。活動の様子を図24に示す。

参加した学生はそれぞれ役割を見出し，大学の活動を理解することができた。また，大学関係者と関わることで，働く大人をじかに感じすることに有意義な体験であったと学生からの感想が得られた。

図24　活動の様子

4 学生サポーター制度

4.1 学生サポーター制度の実際

学生の自主自立を目指し，学生による学生サポーター制度を昨年度から行っている。今年度の前期においては，ボランティア経験が豊富でさらに学内外で活動を積極的に行っている学生6名体制で活動を行った。今年度の新しい試みとして，後期においては，学生サポーターの公募を行った。説明会の様子を図25に示す。

図25　説明会の様子

募集に当たっては，2012年度前期に学生サポーターとして活動している学生が主体的になり，事前説明会を2回開催し，学生への説明を行った。約20名の学生が興味関心を持ち，事前説明会や問い合わせが見られた。その結果，2010年度後期は12名の体制で11月からスタートした。学生サポーターはそれぞれ時間のある時に学生自主活動ルームで活動を行った。さらに，新しい試みとして，学生サポーター自身のコミュニケーション力の向上や傾聴力などの習得をめざし，学生主体で定期的に勉強会を行った。勉強会の様子を図26に示す。

学生サポーターの活動状況などの情報交換を行うために，定期的なミーティングを開催した。

学生サポーターとして活動している学生には，一人ひとりが自ら役割を持ち，課題意識を持ち解決しようとする試みが見られた。

図 26　勉強会の様子

4.2 成果と課題

今年度後期より，学生サポーターを全学の学生を対象に説明会や募集を行った。その結果，ホスピタリティの高い学生がサポートにあたった。そのため，来室学生へのケアやアドバイスなども多岐にわたり，多様化する学生のニーズに対応できる体制になった。さらには，学生間のつながりも深くなり，学部，学年を超えた交流が多くみられるようになった。今後は，学生サポーターのさらなるスキルアップと対応能力の育成が求められる。

5 まとめ

平成 23 年度は，平成 22 年度に引き続き，教育実践学アプローチに基づき，より学生の発想力や想像力，知的好奇心を持たせるような環境整備を行うとともに，学生の興味関心を効果的に発揮できる環境の構築にあたった。その結果，利用学生が増えるとともに，学生企画の活動が活発化した。

また，学内の部署とのつながりから学生が学内で自主的社会貢献活動（ボランティア活動）をする機会を持つことで，学生にとって，自分たちの生活している環境での活動ができたことに対して，充実感などが見られた。今後は，多様化する学生に対応できる仕組みの構築が求められる。

参考文献：
文部科学省 HP